

ぎゅっ

五造中学校

二年

齊藤

永柳

私はお母さんの作るご飯が大好きです。でも一つだけ好きじゃない物があります。それはお母さんが握ったおにぎりです。お母さんが作るおにぎりは固いです。私は固いおにぎりが好きではありません。

私は毎朝機嫌が悪いです。だから気分が良くなる様な朝ごはんを食いたいのです。お母さ

んはパンの方が準備が楽なのに、と言います。でも朝の私はそんな事は気にしません。絶対にお米が食いたいのです。それにふくらしたお米が食いたいんです。だから「朝ごはん、おにぎりじゃなくて、夕飯みたいにおちやわんに入れるだけでいいよ」とお願いしました。それからはおにぎりではなく普通にのごはんになりました。でもすぐに固いおにぎりに戻ってしまいました。理由は一つです。朝の私は機嫌が悪いです。まずすぐに食卓

テーブルに座りません。ソファでボーッと
テレビを眺めます。いつもそのタイミン
グで母は私におにぎりを渡します。私は
そこからゆっくりとお味噌汁とおかずが
あるテーブルに移動して食べ終わるの
です。母の作ったおいしいおにぎりを
食べるしかないのです。

この前の夜、お腹が空いて我慢が
できず、自分でおにぎりを作りました。
そのおにぎりはふんわりしていて、
とても美味しくて「私って天才」
と思いました。私はお母さんに自慢

しに存きました。お母さんは一口食
べて「美味しいね」と言ってくれまし
た。私はそれがすごくうれしかっ
たです。お母さんが「同じお米なの
に、なんでこんなに違うんだろ、う
ね」と言いました。私は「握る力じ
やないの」と適当に答えました。母
は「やさしく握ったの」等、しつこ
く聞いてきて、答えるのが面倒だっ
たので全部「うん」と答えました
が、これで明日の朝は柔らかくて美
味しいおにぎりが食べられるかも。
と期待しました。

次の日の朝、私はいつも通りなかなか目が
覚めずソッパでボーッとしながら忙しそう
にしているお母さんを見ていました。すると
「お兄ちゃん、そろそろ学校に行く時間だよ
と叫びながらおにぎりを握っていました。そ
して、そのおにぎりを私に渡したのです。お
にぎりが固くなる理由がはつきりわかりまし
た。

うちはお父さんと高校生の兄と犬が二匹い
ます。家族全員起きる時間も家を出る時間も
違います。二人ともお弁当が必要です。お母
さんはパートをしていて家を出る前に家事を
終わらせています。なので朝はとても忙しく
おにぎりを握る時も家族の事や家事の事を考
えてくれているみたいです。前に母が、「朝
バタバタしているから。」「いついぎゅっとし
ちゃうんだよね」と笑っていたのを思い出し
ました。「なんでよ」と思ったけど、慌ただ
しい様子を見ていたら、「いついぎゅっとし
ちゃう」気持ちもわかる気がしました。お茶碗

のごはんからおにぎりに戻ったのも、私かな
かなが目が覚めないから食べやすい様に考え
てくれてるのです。それなのに私は機嫌が悪
かったり、いつも美味しくないと言っていま
した。私が作ったおにぎりをお母さんが美味
しいと言っ。てくれた時すごくうれしかったの
に。改めてお母さんがとうと思いました。
私はお母さんが毎朝家族の為に働きながら
勢いで握る固いおにぎりが大好きです。毎朝
これを食べて一日を始められる事がとても幸

せだなと思いました、